

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.47 2017年12月15日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

12月4日は、見かけの大きさが今年最大のスーパームーンでした。前日の主日帰り道、横浜市鶴見区の教会から目黒の学び舎へ車を走らせたら、多摩川を渡るあたりで東の低空にお盆のようなデカイ月を発見。小学生の頃読みふけた、江戸川乱歩の怪人二十面相シリーズに出て来る夜光人間みたいでした。スーパーで売っているりんごが津軽からサンふじへと入れ替わり、柿や洋梨も安売りで、我が家の皮むき担当は大忙し。北風小僧の寒太郎とともにいよいよ冬本番です。

「輝く日を仰ぐとき 月星ながむるとき・・・まことの御神をおもう」(教会福音讃美歌21)

校長 関野祐二

● 後期、光輝、好機

季節は巡り、10月第二週から始まった後期授業もずいぶん進みました。9月の新規聴講生面接で6名を受け入れ、聴講終了など入れ替わりがあって、在校生数は78名に。寒くなってマスク姿が目立つようになり、「風邪ひいた？」と廊下で声をかけると、「はい」「予防です」「・・・」(きっと、歯の治療中か寝坊ですね)と返事は三通り。ともあれ、健康にはお気をつけください。お子さん誕生2名、婚約発表1名で、彼らは俄然光り輝いて見えますね。そんな知らせを掲示板で在校生にお伝えするのも嬉しいもの。そしてこの秋は、なんといっても宗教改革500年。それに関連して、聖書新改訳2017発売、三つの「のみ」をテーマにした福音主義神学会全国研究会議など、ビッグイベント(滅多に経験しない好機)が続きました。担当科目のクイズ(小テスト)で暗唱聖句の採点をする際、2017の訳を知らずに「間違ってる!」と早とちり。全巻通読急務ですが、なかなかどうも(誰か競争する?)。神学会全国研究会議では、東部理事会からの助っ人呼びかけに呼んで、配布資料のセットアップや会場受付にセイケイ神学生が大活躍。ピシッとスーツ姿の会社部長風(実はホントに現役部長)からゆるい普段着の若者(熟年もいたな)まで、キリスト者の自由を地で行く不統一がいかにもでした(明るい元気な対応は統一)。授業三つを会議出席へ振り替えたので、在校生が多く参加出来たのも感謝(質問を義務づければよかった)。最先端の福音主義神学にどんどん触れ、刺激を受け、将来の神学界を担ってほしいですね。

● 赤城山ビジョンリトリート

Y先生とS事務員と私、顔を合わせれば公私問わず話をし(後者二人は家でも)、現場で神学校を動かす住み込みの三人(三羽鳥?)です。誰からともなく「どこかで一泊して祈りたいね」との話が出て、留守を家族寮のあるじに任せ(水曜昼間は教室で勉強方々(のはず)宅配業者対応)、10月中旬の火曜夕から決行。行き先は、神学校を包括運営する聖契教団の施設、赤城バイブルキャンプ(通称ABC)です。車で三時間弱かかる遠距離ですが、道は通い慣れているから途中もゆっくり話せるし、何よりP宣教師夫妻が住み込み管理しているので(なんと雪中越冬)暖房

や宿泊も安心。星降る夜8時頃到着し、薪ストーブが赤々と燃えるP師宅の広いリビング（旧うどん屋）で第一ラウンド開始です。メインテーマは来年度以降の支援者拡大。10月上旬の神学校協議会総会で、いくつかの神学校が「組織図」を披露してくれ、たいへん参考になりましたから、この日のため用意した方眼レポート用紙にチャート作り。夜更けまで大盛り上がりでした。翌朝は朝食までの一時間、ダウンを着込んで紅葉の覚満淵へ（通称ミニ尾瀬）。雨続きでようやく晴れたこの日、夢のように美しい光景を狙ってカメラマンが大挙。カモ泳ぐ水面に沿う遊歩道を歩きつつ、身体の芯に溜まっていた疲れが抜けました。Y先生の指導で各々黙想と分かち合いも。おみやげはP師にチェーンソーで加工してもらった、クスノキの切り株二つ（おっと留守番役家族にもお饅頭）。神学校の玄関で今も森林の芳香を放っていますよ。春になったらまた行きたいな。

● 人繋がりこそ宝

前回のレターから今回まで、数え切れないほどの外部集会、会議、感謝会等に出席しました（葬儀にも）。校長14年目ともなれば（けっこう長いほうみたい）、元々社交的でない（ホントです）気質であっても強いられる恵みで人繋がりネットワークが自然と広がり、感謝感謝。どこへ招かれても必ず知り合いがいます（ある意味怖いことですね）。自慢ではないけれど記憶力が標準以下なので、親しげに挨拶されても内心は「はて、誰だっけ？」と。上手に話をつないでその場を切り抜けます。年齢的にもいわゆるアラカンに差し掛かり、神学校時代の仲間や先輩後輩が各所で責任ある立場に就いていることもあって、何かを頼むこと頼まれること（けっこう重い働き）が多くなりました。これも人繋がりあってのこと。神学校教職員定年まであと十余年ですが（何歳定年かわかりますよね）、経験値に恥じない働きが出来るよう祈りつつ、次世代へのバトンタッチを意識していきたいです。そう、最近はお出かける時カバンの中にいつも「定年後」という新書。「まだ早すぎますよ」と牧師仲間に笑われるのですが、早く準備しないと間に合わないですから。

● 年が明けたら

授業数（135分×20回）確保のため、一般企業と同じく新年は4日が授業始め（セイケイらしい？）。GWや学期休みとトレードオフなので、やむなし。例年通り、年明けに用紙を配布して希望者の個人面談を開始します。来年度の履修計画はもちろん、仕事との両立、家族の問題、将来の働きなど、一人わずか30分ですが、共に考え、主のみこころを仰ぎ、祈るひととき。「校長先生の祈りの課題は何ですか」と逆に問われることもあり、面談が双方向の場であることを再確認させられます。かのパウロも「祈りなさい」「祈りなさい」「祈ってください」「祈ってください」でしたね（エペソ6：18-20）。余談ですが、1月31日は条件最良の皆既月食。水曜日なので授業は休み、祈祷会出席後でも見られますから、神学校屋上でワイワイ見たいな（近所迷惑にならぬよう）。月食開始20時48分、皆既21時51分～23時8分、月食終了0時11分です。あとは卒業式までまっしぐら。予定では（あくまで予定！）5名の卒業生を送り出します。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生78名の3月までの後期学びと卒業予定者の働き準備。新年度学生募集のため。
- ・ 教職員15名の働きと牧会が支えられるように。教師交替時期を見据えての準備と育成。
- ・ 校舎の耐震化工事を含めた将来に向けてのプランニングが良き方向に導かれるように。
- ・ 本校の管理運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。